

# 大城・京ヶ倉の紹介と登山道のご案内



↑写真は「馬の背」から見た北アルプスと村内の眺望です。

安曇野市明科から長野に向かって国道19号線を生坂村に入り近づくと、右手にラクダのコブのような形をした岩山が見えてきます。これが大城・京ヶ倉です。生坂村の村誌には「刃こぼれした巨大なノコギリのような奇妙な山容」と紹介されています。標高は京ヶ倉が990m、大城が980mとけっして高くはありませんが、岩山で険しいうえに、国道に沿って聳え立ち間近に望むせいか、想像以上に高く雄大に見え、その奇妙な山容から何か興味にひかれ一度は登ってみたい山です。

この山は山麓に点在する生坂村の集落と犀川の対岸の山間に点在する池田町の集落を、まるで自分の懐の中に抱え込んで慈しむように見下ろしています。また、登山道の山頂や時々松林の間からは、西側の眼下に生坂村・池田町の集落、更に遠方を望めば雪を抱いた美しい常念岳、蝶ヶ岳、有明山と安曇平、また、北方を望めば蓮華岳、爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳の北アルプスの連山、東側近くには雄大な聖山と筑北の村々、好天に恵まれると更に遠方には煙を噴き上げる浅間山が遠望できます。

この山の謂れは、戦国時代に生坂谷を治めていた丸山氏（仁科一族）が山上に城を築き、甲斐の武田信玄との戦いの備えとし、武田滅亡後には府中（松本）の小笠原氏に攻められた古戦場でもあり、京ヶ倉－大城－眠り峠の登山道は小笠原氏が麻績城を攻めた時に使用した重要な戦略道路でもありました。

この山の登山は通常の里山登山と違い、所々険しいところありますが、いくつもの古戦場となった史跡を探り、古きを思いながら登山する楽しさと、登山する度に、四季折々の花、大きな松、岩、異なった景色が発見出来て、探検気分を味わうことのできる山です。

## ■登山道の紹介

大城・京ヶ倉へ登山する場合、<sup>まんだいら</sup>万平⇒京ヶ倉⇒大城の順で下生坂に下山する道順のほうが道標やテープで進行方向が示されているため道に迷いません。

この場合、下生坂への道は

- (1) 万平(剣刷山)<sup>けんすりやま</sup>→京ヶ倉→大城→はぎの尾峠→下生坂
- (2) 万平(剣刷山)→京ヶ倉→大城→はぎの尾峠→眠り峠→林道眠り峠登山口→下生坂
- (3) 万平(剣刷山)→京ヶ倉→大城→はぎの尾峠→眠り峠口(林道終点)→林道→下生坂の道筋があります。

体力と時間に余裕のある方は、眠り峠口→眠り峠まで1 km 位なので、眠り峠に出て林道を下生坂に下山することをすすめます。林道(雲根線)は道幅約 3m、全面舗装されており、眠り峠より下生坂まで約5 km あり、下り坂で道に沿って眼下に犀川と生坂、池田の集落、南遠方に常念岳、蝶ヶ岳、有明山と安曇平、さらに中央遠方に蓮華岳、爺ヶ岳、鹿島槍を望め、京ヶ倉・大城の山頂で見ることのできなかつた美しい景色を見ることができます。

登山にかかる所要時間は(1)・(2)のコースは約4時間、(3)のコースの場合は林道を下山するのに約1時間要するため、5時間見れば充分です。

駐車場は万平の京ヶ倉登山口と下生坂林道登山口にありますので、各箇所へ1台ずつ車を置いていくと便利です。

また、1台の車で登山する場合は生坂村総合グラウンド横の駐車場に車を置き、小学校入り口より万平登山口まで歩き3km) 更に下山の際は下生坂より国道を犀川に沿ってグラウンドまで歩く(約3km)の方法があります。



## ■道順に沿った登山案内

### 1 駐車場から京ヶ倉登山口

いくさか総合グラウンド横の駐車場に車を置き、小学校入り口より万平を経て、京ヶ倉登山口に至ります。(村営やまなみ荘に登山口までの案内とトレッキングコースマップがご  
ざいます) この道は村道で舗装されていますが、万平までは坂道でこれからの登山を考えて余裕をもって登ることをお勧めします。万平には丸山氏の居館跡、道路に沿った松並木、旗塚などの史跡が残り、また、こや城址は万平居館跡の山頂にあり、京ヶ倉、大城に通じています。本郭、小郭、掘割跡もあり犀川を隔てて日岐城跡が指呼の間に望めます。万平のこや城址の下を村道より左手に林道を約 500m 行き「林産集落振興事業作業用建物」の前を通り、間もなく京ヶ倉登山口に着きます。ここには駐車スペースがありますので、必要な場合は道の通行を妨げないようにして駐車して下さい



登山道入口

### 2 京ヶ倉登山口から万平下山口

登山口の近くの登山道は道がいくつもあり迷い易くなっています。小山の中腹を迂回して山の北側に出る道を進むと山の頂上を越えた登山道と合流し、尾根の南側（犀川側）を進むとやがて古松林の急な登りの登山道となります。中腹におおこば見晴台があり、ここが登りの半分の地点となります。

ここからは生坂ダム、水鳥公園、裏日岐の日岐氏館跡など素晴らしい景色を眺めることができます。更に進むと道標「京ヶ倉方面」があり、道は北側に迂回して沢を通り巨大な岩屏風の下を通過再び尾根に出て万平下り口に至ります。所要時間は京ヶ倉登山口から約 1 時間程度ですが、この登りが登山の一番の難関で残りのコースは稜線を歩くので比較的体力は要しません。この道には進行方向を示すテープと、4 つのハシゴ、ロープがあり、滑落防止の対策がとられていますが、用心して登山して下さい。



おおこば見晴らし台

### 3 万平下山口から京ヶ倉

山の稜線の万平下り口から剣刷山までは約 200m の至近距離ですので、京ヶ倉とは逆方向になりますがここまで足をのぼしたいところです。ここからは、犀川上流の明科、安曇野方面の景色が素晴らしく、京ヶ倉までの道は、幅 50 c m くらいの稜線の道で、歩き始めて間もなく、松林の間からお寺の鐘のような形をした京ヶ倉が見えてきます。道は初め松林の中で高度感はありませんが、やがて樹木はなくなり馬の背のような円みのある大きな岩の上の道となり、左右が絶壁になるので恐怖感にとらわれます。馬の背の道のロープを頼りに、這うようにしてこの難所

を通り抜けると 30m 位な急な岩場となります。左右の景色が目に入り高度間におそわれますが、ロープが設置されているのでそれを頼りに、岩の切れ目に足をかけて京ヶ倉の頂上を目指して下さい。京ヶ倉は標高 990m 生坂山脈の最高峰で戦国時代番兵の見張り台と、のろし台でした。所要時間は約 40 分です。



京ヶ倉山頂付近のヒカゲツツジの群生



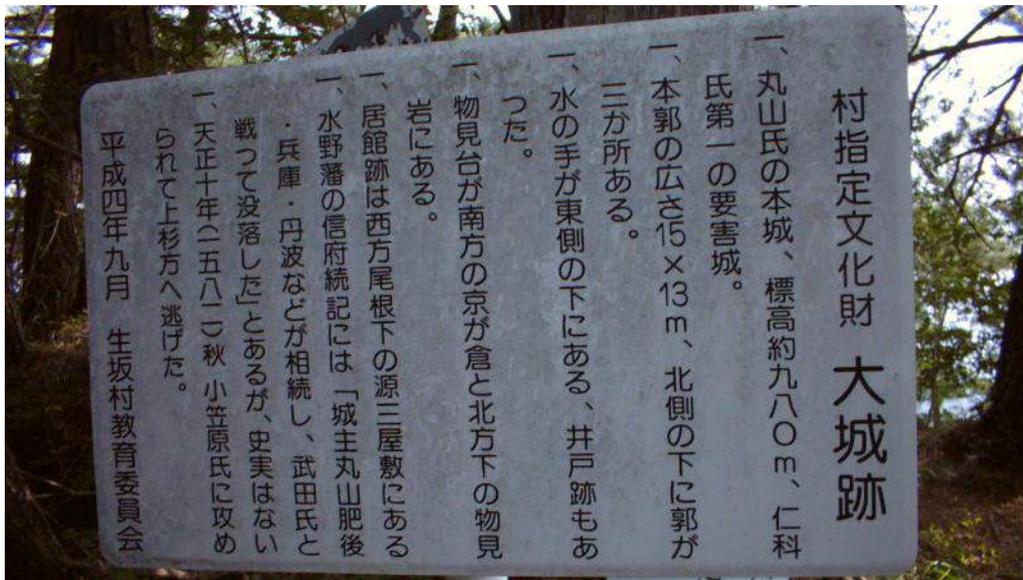
馬の背の道



京ヶ倉山頂

## 4 京ヶ倉から大城

再び稜線の長さ 30mの馬の背道となり、ここも左右が絶壁で恐怖心にとらわれます。大岩を迂回して稜線を歩き、大きな天狗岩、三角岩を迂回して、大城の頂上の下を左に大きく迂回して大城の頂上に出ます。道は何度も大きな岩に行く先を阻まれ迂回しますが、進行方向にはテープが付けてあり、慎重にいく先を見定めて進んで下さい。特に大城の頂上下の迂回は右手上方に頂上があることを念頭において進む必要があります。進行途中の稜線からは、右手に岩殿山と筑北の村々を眺めることができます。大城は標高 980mで約 400 年前の中世、生坂一帯を領した仁科氏の一族丸山氏が、大城の急険を利用して城を築きました。この城は日岐大城と呼ばれ仁科四十八城中、その規模と堅固なことは、随一といわれ、現在も郭跡・井戸跡が残っています。所要時間は約 30 分です。



↑京ヶ倉から大城にかけて望むことができる草尾上野巨峰団地（左中ほど）、高津屋森林公園（右中ほど）です。天気の良いと、遠方に北アルプス連峰が望めます。

## 5 大城から物見岩、三角点

大城より樹木の中の急な下り道に出ますが、道にはロープがありロープを頼りに滑らないように慎重に下ります。大城からこの下り道に至る道は迷いやすく、良く方向を定めて進行方向を示すテープによって進む必要があります。その先の道は、松林の中の平坦な道で、道ははっきりしています。松林の間から左手下に犀川に沿った草尾、下生坂の各集落、上野巨峰園、昭和電工の発電所（青木湖から水が引かれている）、更に山頂には高津屋森林公園の施設が見えます。間もなく物見岩があり、更に進むと三角点に着きます。物見岩は戦国時代に兵が見張りをした所で、三角点は、明治 30 年代、陸地測量部が眺望の良いところに三角形のやぐらを建てて三角測量を行ない、50,000 分の 1 の地図を作成した重要な基準点です。所要時間は約 20 分です。



物見岩

## 6 物見岩、三角点よりはぎの尾峠

平坦な静かな松林の道が続き、1人で歩くと、まるで自然に呑み込まれるような気持ちにとらわれます。樹木のあいだには、春には三葉つつじ山つつじ、れんげつつじを見ることができます。やがて分岐点のはぎの尾峠に出ます。

ここは「左眠り峠方向、右大城、京ヶ倉」、「下生坂方面」の二つの道標と下生坂区の案内図があります。はぎの尾峠を通る道は、江戸時代以前より昭和40年代まで下生坂から大城、入山方面に行く重要な生活道路でした。所要時間約20分です。



はぎの尾峠分岐点



眠り峠（林道終点）

## 7 はぎの尾峠より下生坂

下生坂に下る道は、「登山の紹介」でふれたように

(1) はぎの尾峠→眠り峠→下生坂

☆急な下り 所要時間約30分

(2) はぎの尾峠→眠り峠口→下生坂

☆なだらかな下り 所要時間約40分

(3) はぎの尾峠→眠り峠（林道終点）→林道→下生坂

☆距離は長いですが、林道からの眺望が素晴らしい 所要時間約60分

3つの道があり、それぞれ特徴があります。案内板を参考にして下山の道を選んで下さい。

## ■宿泊施設

村営「やまなみ荘」(Tel.0263-69-2032)

(<http://www.yamanamiso.com>)



**定休日:不定休 定休日は事前にご確認ください。**



### 天然鉱石ラジウム岩盤浴場 (日帰り入浴可)

浴槽に晶石を貼った大浴場は、ラドンとトリウムが一定以上に含まれ、体を芯から温めますので、リュウマチや神経痛の湯治にご利用ください。また、水晶成分を多く含んだ柔らかいお湯は、肌のカサカサを抑え保湿力をアップします。

日帰り入浴 (AM10:00~PM9:00)

料金：大人 400円 / 小学生 200円 / 幼児 無料



静かで落ち着いた雰囲気の中で、ゆっくりおくつろぎいただけます。全11部屋でバス・トイレ付や和洋室等ございます。また、やまなみ荘宿泊者様特典として、大城・京ヶ倉トレッキング無料送迎サービスがございますので、ご希望の方は、宿泊予約の際にお問い合わせください。



地元職人が打った手打ちそば、ラーメン、日替わり定食等豊富なメニューを取り揃えております。お食事のみのご利用も可能です。

### 食堂営業時間

昼の部 11:30~14:00

夜の部 17:00~20:00

## ■食事とお土産

「**かあさん家**」<sup>ち</sup> (Tel.0263-69-2712)

手作りジュース、梅漬けや地場野菜など村の特産品の加工・販売をするお店です。

村のお母さん達が心を込めて作った手打ちうどんを使った各種メニューがあり、食事もできます。

(<http://www1.ocn.ne.jp/~kousya/>)



営業時間:10:00~16:00

定休日:月曜日 ※月曜日が祝日の場合は火曜日が定休



生坂村で育った農産物を使い、素材を活かした特産品を開発しています。

お土産品の購入は、『かあさん家』へ



生坂村の小麦粉をふんだんに使った麺を、味噌仕立ての汁へ野菜を煮立つおつゆでお召し上がり。他にも『おにかけ』『味噌煮込み』『よもぎ』などうどんメニューが豊富です。